

第1回

# 関節外科を 専門医をめざして

八戸平和病院整形外科科長

藤井 一 晃  
ふじ い かず あき



4 変形性膝関節症



3 正常膝関節



2 変形性股関節症



1 正常股関節

## 現

在、八戸平和病院にて整形外科の仕事をしている藤井一晃（ふじいかずあき）です。昭和63年に弘前大学医学部を卒業し、同大学の整形外科に入局、早いもので22年間整形外科の仕事をしております。この期間で整形外科の治療方法はすばらしい発展を遂げました。整形外科で治療する病気は脊椎疾患、関節疾患、手の外科、外傷、スポーツ障害など多岐にわたり、また、それぞれの分野で急激に進歩しているため、年々専門性が強くなってきています。私はその中で股関節、膝関節などの関節疾患、特に人工関節手術を専門的に勉強してまいりました。私の経験を元に変形性関節症の治療についてこの機会にご紹介したいと思います。さて、変形性股関節症、変形性膝関節症とはどういう病気でしょうか。

## 変形性股関節症

### 股

関節が変形することにより疼痛を生じ、歩行困難となる状態を変形性股関節症といいます。先天性股関節脱臼、骨盤の受け皿が浅い臼蓋形成不全など先天性の原因が多く、50歳代以上の女性が治療の対象となるものがほとんどです。股関節は人間の体の中で一番体重の負荷がかかる関節であるため、変形を生じると強い疼痛を生じ、歩行が困難となります。正常の状態と変形した状態を図1、2でご覧下さい。いったん変形を生じた軟骨を再生することは現在の医学では不可能であり、薬やリハビリ的な治療では改善しないことが多いため、手術的な治療を要することが多い疾患です。

軟骨を保護するヒアルロン酸を直接関節内に投与することにより疼痛を軽減することも可能ですが、変形が強い場合は保存的治療では疼痛が改善しないため、手術の適応となります。

## 日

本では手術的治療に関して、以前は敬遠される傾向にあり、私自身も若い時はなるべく手術はしない方が良いと思った時期もありました。しかし、平成12年に海外留学を経験しその考えは変いました。海外では関節疾患は人工関節手術を行うことが当たり前になりました。私の留学したフランスの人工関節専門医は週に10件程度、年間500件以上の人工関節手術を行うことが普通でした。まさに自分の腕で直すという外科医としては最高の仕事です。しかし、そのためには外科医としても並みな

らぬ努力が必要となります。その現実を目の当たりにし、私のめざす事はこれだと確信し、厳しいとは思いましたが、海外に負けないよう、帰国後八戸で自分なりに努力してまいりました。おかげさまで、八戸市に赴任してより11年間の現在まで、股関節、膝関節に対する人工関節手術を約700件経験させていただきました。まだまだ、少ない経験ではありますが、病院のスタッフの協力もあり、徐々に世界的にも引けをとらない治療を行うことができるようになってきていると思っております。膝、股関節の疼痛で苦しんでいる方は想像以上に多いものです。3回にわたり、変形性関節症についての紹介、最新の手術療法、治療成績、今後の展望につきますご紹介いたします。股関節、膝関節の疼痛でお困りの方はぜひ読んでいただきたいと思えます。

## 変形性膝関節症

### 膝

関節は股関節と異なり年齢に伴う変形の原因となります。そのため変形性股関節症より年代が高い方が手術適応となることが多いとなります。正常の状態と変形した状態を図3、4でご覧下さい。膝の場合は関節が皮膚から浅い位置にあるため、

FUJII KAZUAKI

藤井 一 晃

ふじ い かず あき

秋田県湯沢市出身  
昭和63年 弘前大学医学部卒業、弘前大学整形外科入局  
平成8年 博士号取得  
平成11年 フランス留学  
平成12年 八戸市民病院整形外科科長  
平成16年 八戸平和病院整形外科科長



# 広 告